



優良住宅部品認定基準の改正について

一般財団法人 ベターリビング 住宅部品評価グループ

一般財団法人ベターリビングでは、この度、下記品目について優良住宅部品認定基準（以下「BL認定基準」という。）の改正を行い、公表・施行しました。BL認定基準の改正のポイントは、以下のとおりです。

なお、BL認定基準の詳細につきましては、一般財団法人ベターリビングホームページ（<http://www.cbl.or.jp>）でご確認ください。

I. 2020年7月17日付改正

1. 住宅用火災警報器

1) 無線式連動型住宅用火災警報器の追加

無人の部屋で出火した場合に、他の部屋で警報音を発することにより、火災の早期発見、早期避難に効果的であるため、無線式連動型住宅用火災警報器を認定対象に追加しました。

<改正のポイント>

- ①通信状態の減衰を発報する警報の通信状態確認頻度について、72時間（3日）に1回以上と規定
- ②警報停止操作や点検操作等の取扱説明が高齢者などにもわかりやすく表現

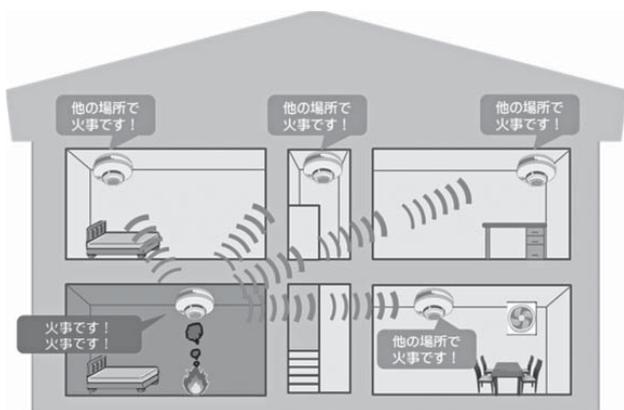


図 無線式連動型住宅用火災警報器のイメージ
（総務省消防庁ホームページより）

2) 外部出力なしの単独型住宅用火災警報器の追加

部品の構成を見直し、外部出力がない単独型住宅用火災警報器を認定対象に追加しました。

2. ハイブリッド給湯・暖房システム

1) 適用範囲の緩和

電気ヒートポンプユニットと組み合わせるガス熱源機について、潜熱回収型ガス熱源機に限定していましたが、潜熱回収型以外のガス熱源機も可能とし、認定適用範囲を拡充しました。

2) 構成部品の見直し

構成部品のうち「放熱部」と「搬送部」を「選択構成部品：必須構成部品に選択的に付加することができ、必ずしも保有しなくてもよい部品及び部材」として見直しました。

3) 引用試験の見直し

- ①BLT HB-04「貯湯タンクへの沸き上げ温度試験」、JRA 4050のA.3.1～A.3.6「給湯加熱性能及び消費電力試験」をJGKAS A705の5.1「ヒートポンプ加熱性能試験」に置き換えました。
- ②BLT HB-02「給湯エネルギー効率試験」をJGKAS A705の5.2「年間給湯効率の算出のための試験」に置き換えました。

3. 宅配ボックス

1) 基準の統合

「集合住宅用宅配ボックス」と「戸建住宅用宅配ボックス」のBL認定基準を統合し、「宅配ボックス」のBL認定基準としました。

4. 太陽熱利用システム、太陽熱利用システム（屋根下集熱方式）、太陽熱利用システム（カスケード方式）

1) JIS規格改正に伴う基準の改正

最新版の引用JIS規格（JIS A 4112（太陽集熱器））に更新しました。